

令和5年度事業報告書

社会福祉法人 報徳至誠会
児童養護施設 桑梓 事業報告書

令和5年度 総括

令和5年4月1日に、常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を真ん中に据える「こどもまんなか社会」の実現を目的として、こども家庭庁が発足しました。桑梓も職員一丸となって子どもにとって何が大切か、何を優先すべきかを第一に考えてこの1年間取り組んだ結果、おかげさまで重大事故の発生もなく全体を通して概ね順調に運営できました。

令和5年5月8日に、3年余り続いた新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」となりました。コロナ禍では全体行事などがほとんど行えず、行事や外出を計画しても緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令で急に中止になるなどストレスの多い生活が続いていました。しかし、5月以降は感染状況をみながらコロナ禍前の生活に少しずつ戻して、日常に活気が出てきました。

夏には子ども達の楽しみの一つである一泊旅行で千葉県の九十九里浜へ海水浴に行きました。秋には桑梓協力者の方々にもご協力を頂き開設20周年記念も兼ねた秋まつり、冬にはレストランの美味しい料理を堪能しながらのクリスマス会、3月には始めて児童が出し物を披露した卒園・卒業を祝う会など施設全体での行事を盛大に行うことができました。

児童については新規入所者が3人、高校卒業による退所者は3人で、それぞれ希望した道に進むことができました。職員については新規採用者が4名で、退職者が3人でした。残念ながら退職理由にメンタル不調者がいました。児童養護施設は子ども達の不安定な感情を日常的に受け止めなければならない大変な職場です。このため、職員が気持ちよく勤務できるように働きやすい職場環境や雰囲気作りに尽力してきましたが、引き続き各種研修やフォロー体制の充実などに努めて参ります。

児童養護施設 桑梓 施設長 根岸潔

令和5年度事業報告書

入所児童データ

(1) 措置理由（令和6年4月1日現在）単位：人（重複あり）

身体的虐待	心理的虐待	ネグレクト	性的虐待	離婚による 養育困難	経済的養育 困難	疾患による 養育困難
6	3	3	1	8	0	18

(2) 在籍児童数の推移（各年度4月1日時点）

単位：人

区分	年度	30	元	2	3	4	5
	幼児	5	7	10	7	5	2
小学生	9	11	10	13	15	16	
中学生	6	6	6	5	4	4	
高校生	5	1	2	4	5	6	
専門学校生・その他	1	0	0	1	1	1	
計	26	25	28	30	30	29	

(3) 過年度入所児童数

単位：人

区分	年度	29	30	元	2	3	4	5
	幼児	4	2	6	1	0	2	1
小学生	1	3	1	3	0	0	0	
中学生	0	1	0	0	0	0	1	
高校生	0	0	0	0	0	0	0	
計	5	6	7	4	0	2	2	

(4) 過年度退所児童数

単位：人

区分	年度	29	30	元	2	3	4	5
	幼児	0	0	0	2	0	0	0

令和5年度事業報告書

草加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さいたま市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	29	30	356

(8) 令和5年度入所児童年齢構成 各月1日付け 単位：人

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数
専門学校生	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
高校生	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
中学生	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	68
小学生	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
幼稚園	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	33
計	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	356

6月に3歳女児1名の一時保護受入。7月に入所切り替え。

6月に中学3年男児1名を緊急一時保護受け入れ。8月に入所切り替え。

退所児童及び卒園児童について

	進学・就職	詳細
高校3年男児	就職	県内企業 プログラミング会社
高校3年男児	就職	県内企業 養鶏作業員
高校3年女児	進学	県内学校 保育専門学校

ユニット別 年齢構成

ユニット名	幼児	小学生	中学生	高校生
カルミア	0名	5名	2名	1名
ぼたん	0名	5名	2名	1名
コスモス	2名	2名	1名	3名
すみれ	1名	3名	1名	1名

令和5年度事業報告書

職員構成について

常勤30名 非常勤14名 計44名

施設長、事務長、統括主任、主任（UL）、CL、児童指導員、保育士、心理士、栄養士、事務員、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、自立支援担当職員、個別対応担当職員、調理員、宿直専門職員、サポート職員

3年目女性保育士が休職、11月に依願退職。

2年目女性指導員が休職。3月に依願退職。

3年目男性指導員が年度内で退職。

事故報告提出について

日付	内容
7月	コスモス年中男児のこども園内でのケガ
12月	コスモス 高校1年女児の階段からの転倒によるケガ

令和5年度は2件の事故報告を提出する事案が発生。

県福祉部子ども安全課と各児童相談所長へ報告書の提出を行っております。

ヒヤリハット報告

	ケガ	職員対応	物品管理	服薬	その他	計
4月	0	0	0	0	1	1
5月	2	1	0	1	0	4
6月	5	2	0	2	0	9
7月	1	1	1	0	0	3
8月	4	1	2	0	1	8
9月	3	0	0	1	0	4
10月	4	5	2	6	0	17
11月	1	1	1	0	0	3
12月	4	3	2	0	1	10
1月	3	1	0	1	0	5
2月	1	0	3	0	2	6
3月	4	3	1	2	0	10
計	32	18	12	13	5	80

ヒヤリハットについては全80件の報告があった。各項目は以下の通り。

令和5年度事業報告書

物品管理が19件 軽微なケガが36件 対応が18件 服薬が12件

・主な重大内容として

年中男児が入浴中、浴槽の空間部分に蓋が倒れ挟まる（職員・児童対応）

入所児童に親の意向を確認なしに伝えてしまう（職員・児童対応）

最も多いのが軽微なケガで、小学校低学年～年少児に多く見られる。日常生活場面で起きたもの、児童の発達特性が起因するものも多い。職員が環境調整をし、多くの経験からケガや大事に至らないように支援していく。

月別統計では10月が17件と最も多く、次いで12月と3月の10件。9月の園内研修でリスクマネジメント、ヒヤリハットを行ったことで、職員の意識が高まったものと考えられる。

具体的な事業目標に対する取り組み結果として

○職員育成

1 研修の充実

(1) 新任研修

令和5年度は指導員2名、保育士2名、計4名を採用。

・入職時研修（3月）、ユニット会議（各月）等で研修を実施。

施設の概要、児童支援の基礎知識、地域見学等を実施。

・新任職員子ども遊びプログラムの計画立案、実施

8月…なんでも大会 借り物競争、水遊び、花火

2月…なんでも大会 逃走中

(2) 施設内研修

・OJTならびにOFF-JTの実施

2年目職員が新任職員を指導。先輩職員は自身が受けた指導を活かし、新任職員へ教育。職員双方の成長に繋がった。

・ケースカンファレンスの充実を図る。

権利擁護ガイドブックを用いた施設内研修の実施。

全6回9項目について実施。

事例発生の背景や人間関係にも注目し、課題の改善のための具体的な支援方法を検討。

実施時期	検討会参加者	事例内容
9月	UL	【職員育成】 支援体制の安定と強化
9月	UL	【職員育成】 児童への対応について

令和5年度事業報告書

1 2月	統括主任 UL	【職員育成】 担当制廃止後の職員と児童の関係
1 2月	カルミア ぼたん	【職員育成】 子どもへの人格否定になる言葉と対応
1 2月	コスモス	【職員育成】 要否への言葉掛けと対応について
1 2月	すみれ	【職員育成】 子どもとの関係作り
2月	カルミア ぼたん	【支援困難児童への対応】 異性の友人と予期せぬ妊娠となった時の対応
2月	コスモス すみれ	【支援困難児童への対応】 予期せぬ妊娠となった児童への対応

(3) 階層別会議

階層ごとに会議を開き、支援体制の強化を図った。

- ・主任会議 施設長、統括主任、主任。
 各ユニットの運営方針や状況を協議、決定。
- ・ケアリーダー会議 統括主任、主任、ケアリーダー。
 支援方法や対応の仕方などを協議、指導、決定。
研修 ・自立支援計画策定 等 書類作成ポイント
 ・リーダー育成 ・PDCA サイクル
 ・リスクマネジメントと危機管理
 ・SVの役割 等
- ・ユニット会議 ケアリーダー、ユニット職員。
 OFF-JTを意識し、職員が対応できる方法を
 全体で共有し、取組と評価を繰り返し行った。
研修 ・スモールステップ ・職員間連携 等

(4) 権利擁護勉強会

各分科会より、施設全体で学びたいこと、児童支援において必要なスキルの向上のための取り組みを行った。

	担当委員会	事例内容
4月	心理士	ストレスコーピング
5月	性教育	僕・私の取扱説明書
6月	生活進路	コンパスナビ 奨学金について
7月	食育	ユニット調理の困り事 フードロス 節約について
9月	安全管理	リスクマネジメント
10月	食育	物の適量について

令和5年度事業報告書

1 1月	生活進路 CAPとらいあぐる	退所後に自立した生活を実現するために 子どもと性暴力について
1 2月	主任 里親支援担当	事例検討 里親制度
1月	性教育	子どもと一緒に考える性（生）教育
2月	主任 発達支援センター すきっぷ	事例検討 集中力について考えよう ～発達検査を上手に活用～ 子どもからのSOS ～リストカット生きることへの願い～

○職員間連携体制

入所児童の健全育成のため、組織的・計画的かつ、柔軟な支援を実施。職員は常に児童への支援向上のために、連携に努めた。

8月と12月に施設内人事交流を実施。今年度はCLも参加し、各ユニットの取り組みを知り、自ユニットに活かす機会とした。

風通しの良い職場環境のため、今年度も施設長を中心として職員面談を継続。またCL、ULとの職員育成面談も定期的の実施することで、現状と今後について共有。職員の孤立感を防ぐだけでなく、福祉人としてのこれからのについても共有することで、自身のやりがいを刺激。

健全な組織運営の構築のため、風通りの良い人間関係を意識。報連相の徹底と指示系統の確認。日々の業務の中で、漏れが出ないように情報共有に努めた。

○安全管理会議

(1) ヒヤリハットの活用

ヒヤリハットを分析し、各ユニットへ発信。再発防止、重大化を防ぐ。

具体的な改善の方法を協議し、再発防止と意識向上に繋げた。

(2) 避難訓練

月1回の避難訓練と年1回の総合防災訓練を実施。火災・地震・不審者対応を実施。災害時に想定される状況下での避難訓練を実施。

(3) 常備薬、遊具の等の定期点検

定期点検により、適正管理の指導を行う。

(4) 防災用具の整備と確認

物品整備ならびに定期的に使用法の確認を行う。

令和5年度事業報告書

(5) 手作り新聞の作成

児童の安全に関して適宜、情報を発信した。

- ・総括 ヒヤリハットを再発しないよう改善の動きに繋がって行きたい。
来年度はマニュアル作成に力を入れ、新任職員だけでも対応できるようにしていきたい。また消防署との連携により総合防災訓練、心肺蘇生法などの講習を受け、不測の事態に備えられるようにしたい。

○生活進路会議

(1) 自活訓練の計画、実施、評価

自立を控える高齢児を対象とした一人暮らし講座や調理体験を実施。

(2) 進路指導

高校進学について、近隣の学校紹介。

中高生勉強会では、就職、進学等について学ぶ機会を作った。

(3) 手作り新聞の作成

児童の進路や自活に関して適宜、情報を発信した。

- ・総括 来年度は児童から聞き取りした夢について支援する機会を増やす。
児童、職員も奨学金制度や支援団体について学ぶ機会を設ける。
児童の進路について、体験や経験談などの機会を設ける。
その中で、進路選択や資格取得など、学校選択について学び、児童の基礎学力の定着や学習意欲向上に繋がって行きたい。

○性教育会議

(1) 埼性研 報告・周知・検討

埼玉性的虐待研究会（埼性研）に参加し、各施設の性教育の取り組みを学び、桑梓での指導に取り入れていく。

(2) 誕生日を祝う色紙の作成

職員より『生まれてきてくれてありがとう』のメッセージを添え、渡す。

(3) 性（生）教育指導

洗髪・洗体の仕方など、子どもに身に着けてもらいたい日常的なものから、人との距離の取り方や関わり方など、実演して指導する。また、私の取扱説明書を作成。自己覚知だけでなく、他者のことを知ることで、より適切な関わり方を学ぶことができた。

(4) 手作り新聞の作成

児童の性に関して適宜、情報を発信していく。

- ・総括 来年度の活動は今年度を継続し、さらに取り組んでいきたい。

令和5年度事業報告書

子ども向けの性教育を実施する。
自分の取扱説明書・赤ちゃんはどこから 等、休み中に実施。
児童の生活の思い出である写真撮影の普及と適切保存。

○食育会議

1) 行事食企画

年中行事の際の献立を考え、児童に提供。

(2) 児童の調理参加

日常的に調理経験を積むことで、食事の大切さを学ぶ。

(3) 調理メニューの提案と実践

児童が自立した後を考えて、手軽に作れるメニューや食材から作れるメニュー案をユニットに提案。日常調理で実践することで、児童の調理スキルの定着や向上、経験する機会に活かす。

(4) 手作り新聞を作成

児童の食に関して適宜、情報を発信していく。

- ・総括 どのユニットも児童と楽しんだ調理体験を実施することが出来た。また、お箸の持ち方練習会も開催。良い姿勢で食べる指導も行う。旬の食材や安い食材を取り入れたメニューや苦手なものにチャレンジするメニューなど、更にレベルアップを図りたい。

○代表者会議

CLを中心に定期的に実施。児童からの意見を吸い上げて、施設全体で協議する機会を作る。児童が主体的に生活を考える中で、児童の権利を尊重し、共に生活を作っていくことを今後も大切にしていく。

○中高生会議（中高生勉強会）

中高生だけを集めて、卒園後の生活を具体的にイメージする前段階の学びの機会を作る。施設生活で守ってほしいルールについて、みんなで考えたり、職員の想いを伝えることで、相互の権利を尊重した生活を送ることを大切にしていく。

○子どもの遊びプログラム（なんでも大会）

月1回を目安に実施。参加賞や優勝賞品も用意し、子どもたちが楽しく参加することができた。

ゲーム大会 ウォークラリー 水遊び大会 ナイトウォーク

令和5年度事業報告書

ハロウィンナイト（肝試し） 20周年祭（秋祭り）
グラウンドキャンプ体験 初日の出登山
卒園卒業を祝うフォトムービー上映会 など

○地域に開かれた施設としての役割

施設グラウンドに芝を植え、緑地化。入所児童だけでなく、地域の方々にも利用してもらおう事で、地域に広く施設の存在を知ってもらう。

○ホームページの充実と活用

ブログでの情報発信を行い、入所児童の生活が分かる内容を発信。今後も桑梓に興味を持ってもらい、人材の確保にも繋げていく。

○地域との交流事業

今年度も、感染症予防対策のため、交流事業が縮小、中止が多かった。そのなかでも、収束を見据え、施設内で軽微なプログラムを計画、実施し、経験することができた。

また多くの有志の方々のご支援により、様々な体験プログラムに参加させていただきました。また多額のご寄付も頂戴致しました。

4月	寄贈品園内フリーマーケット 交通安全教室 相撲観戦招待
5月	野球観戦招待 プロレス観戦 ドゥーイングさん来訪
6月	子ども食堂 一人暮らしご飯作り体験
7月	じゃがいも収穫体験 夏野菜収穫体験 むさしの村招待
8月	お笑いライブ 本庄七夕祭り
9月	
10月	ハロウィン仮装行列 おしゃべり食堂 サッカークリニック
11月	大根掘り、さつまいも掘り収穫体験
12月	削り花製作体験 プロレス招待 ドゥーイングサンタさん来訪 サンタライダーズ訪問 おっつてもプロジェクト来訪 園内クリスマス会実施協力
1月	餅つき おしゃべり食堂
2月	プロレスショー観戦 クリスマス会ビデオ上映会
3月	卒園卒業を祝う会